

病害虫発生予察地区報 第5号

—— 地区注意報 ——

病害虫名：トマトキバガ

学 名：*Tuta absoluta* (Meyrick)

対象作物：トマト、ミニトマト

1 情報の内容

南信地域に設置したフェロモントラップへのトマトキバガ雄成虫の誘殺頭数が急増しており、トマト、ミニトマト栽培においてトマトキバガの被害が多発する恐れがある。

2 対象地域

南信地域のトマト、ミニトマト

3 根 拠

- (1) 南箕輪村、長野市の2か所に設置しているトマトキバガのフェロモントラップのうち、南箕輪村のトラップへのトマトキバガ雄成虫の誘殺頭数が、8月に入り急増している(図1)。
- (2) 南信地域の2か所のトマト、ミニトマト栽培ほ場において、トマトキバガによる被害が疑われる報告があり、そのうち1か所については、捕獲した幼虫を羽化させ、トマトキバガであることを確認した。もう1か所についても、現在、同定に向けて捕獲幼虫を飼育しているが、幼虫の外観からトマトキバガである可能性が高い。

4 防除対策と留意点

- (1) ほ場内をよく見回り、早期発見に努め、本種と疑われる虫を見つけた場合は、速やかに農業試験場病害虫防除部(病害虫防除所)または最寄りの農業農村支援センターに連絡する(写真1～3参照)。
- (2) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し、本種成虫の侵入を防止する。成虫は、翅を閉じた状態で体長5～7mmと小さいため、防虫ネットの目合いは1mm以下とする。
- (3) 被害葉や被害果は栽培ほ場内に放置せず、土中深くに埋設するかポリ袋などに入れて密閉し、寄生した成幼虫を死滅させる等、適切に処分する。
- (4) トマト及びミニトマトでは、本種に対して登録のある薬剤がある。農薬を使用する際は、必ず農薬ラベルの記載事項を確認し使用する。なお、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統が異なる薬剤によるローテーション散布を行う。

5 その他

生態と被害等については『令和6年度病害虫発生予察特殊報 第2号』を参照する。

<https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/joho/byogaichu/documents/r6tokushuhoui2gou2.pdf>

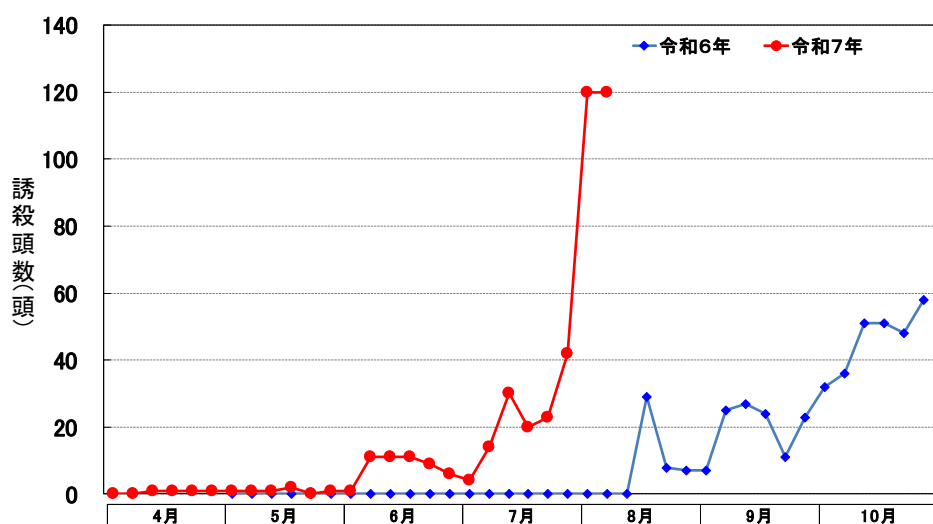


図1 フェロモントラップへのトマトキバガ雄成虫の誘殺消長



写真1 葉の被害 (トマト)



写真2 トマトキバガ幼虫



写真3 羽化したトマトキバガ成虫

※ 写真1～3 『令和6年度病虫害発生予察地区報 第3号』掲載写真。

(問合せ先)

担 当 病虫害防除部中南信班 佐原、増澤

電 話 0263-53-5642

ファクシミリ 0263-54-4508

電子メール bojo-y@pref.nagano.lg.jp